

共同リサイクルシステム

技術概要

スケールメリットを活かしたごみ処理費用の低減、またそれに伴うリサイクルの促進を行うために、各事業所・建物から個別に排出される廃棄物を共同で回収するシステム。



出典：オフィス町内会事務局 HP (<http://www.tgn.or.jp/office-c/>)

図．共同リサイクルシステムのイメージ

新都市での導入効果・課題等について

新都市では、OA紙等、よく似た組成（種類）の廃棄物が排出される業務系用途の建物の集積が予想されるため、共同リサイクルシステム導入の効果は大きいと考えられる。

導入における課題（対応策の例）

事業者間での複数の事業者による協力が必要。分別基準の統一等

新都市の業務系事業者間で地域協定を結ぶ等、事業者の協力を計画的に促進する。

その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

古紙リサイクルに関するノウハウ、システムの共有によって、古紙の分別回収をスムーズに行うシステムであるNGO「オフィス町内会」等の取組みがある。

（参考）オフィス町内会について

平成3年8月に発足したオフィス町内会は、環境NGO（非政府組織）として古紙の共同回収に取り組んでいる。その活動は、紙ゴミの減量化・資源化という市民社会共通の課題への取り組みであり、会員企業による地に足のついた社会貢献の一環として進められている。さらに、再生紙使用拡大をはかるための提言を行うなどオフィス古紙リサイクルを通じた社会貢献活動の展開により、平成6年度リサイクル推進功労者等表彰では内閣総理大臣賞を受賞している。また、「オフィス町内会」は千代田区、中央区、港区と協力して「エコ・オフィス町内会」を運営している。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成